

Por um futuro melhor



どの子の未来も明るくなりますように！ フラジル通信 No.16 2018.11.12 学校教育課 鳥山徳子

子どもは「Criança」 子どもたちは「Crianças」

牟呂小のみなさん、折り紙のプレゼントをありがとう！



⑮ 10月26日(金) CLEMENTE NIEHUES 学校訪問(二部制) ⇄ 牟呂小学校



昨年初めて IDEB の学力検査を受けました。結果が悪かったので、4年生の11月から週2回午後から勉強に来させています。40時間勤務の先生の研修時間を使って行っています。まずテストをして、その結果を見て補習をしています。また、この学校には先生の言うことを聞かないだけでなく、たたいたり、車を傷つけたりする子どももいます。先生を大切にしないので、先生を尊敬するようにいつも話をしています。

シルビア校長 (8年目)
 ・児童数 102人 (特別支援 10人) (午前27人午後75人)
 ※支援学級はない。
 ・学級数 6学級 (午前2+午後4)
 ・教員数 6人
 ・IDEB 6.5

★中心部から最も離れた(23 km)学校です。子どもの数が減っているため、今年から隣村(?)から15名がこの学校に通うことになったそうです。

★校長先生は、昨年までは1人でCMEI・小学校・中学校の校長を兼任していましたが、今年は、CMEIに校長先生、小学校にはsupervisorも配置され、少し楽になったと話していました。

★教員の数が足りないため、歴史・地理・理科・体育は、大学生が教えているそうです。

★州立の中学校が併設されています。初めて中学生と対面しました。9年生(中学3年生)にもなると、大人にしか見えないですが、「ぼくの名前は日本語だと何て言うの?」と照れながら質問するなど、内面はまだ子どもで安心しました。

積極的に質問をし、ずっと笑顔で私の話に耳を傾けてくれた9年生の皆さん。



「平和」をテーマにしたダンスを披露してくれた小学5年生

⑯ 10月29日(月) AYRTON SENNA DA SILVA 学校訪問(全日制) ⇄ 岩西小学校



この地域は、親が麻薬で逮捕されたり刑務所にいたりする家庭が多いです。会議の出席率は、60~70%で、呼んでも来ません。4年生にはクラスに7人困った子がいます。友達をたたいたり、暴れたりするだけでなく、教室から出て行ったり、大きな声を出して授業の邪魔をしたりします。その親を呼んだとしても逆上して叫ぶだけなので、今は呼ぶこともしていません。ほかの親も来たとしても、「私の息子はいい息子です」と言って聞く耳を持ちません。先生たちも一生懸命やっていますが、忙しいので、学校としては、今は何もしてあげられていません。

★午後からの小学校の大会(陸上競技や綱引き、ドッジボールなど6種目)の開会式に参加するため時間がなく、学級訪問がほとんどできず残念でした。

マルレーニ校長 (2年目)
 ・児童数 307人 (特別支援 12人)
 ・学級数 17学級
 ・教員数 25人
 ・IDEB 7.1

ちょこっと情報【ブラジルの貧困家庭への支援】

多くの学校で、親が刑務所に入っていたり麻薬で逮捕されたりしている家庭が多いと聞きます。貧困家庭への支援について聞いてみました。

- ①刑務所に入っている人の家族には毎月954リアル支給。
- ②家族の収入が1人当たり85~170リアルの貧困な家庭には、1人当たり85リアル支給。
 ※条件として、家族の中に妊婦・子ども・17歳未満の青年がいないとダメ。
 ※最高で195リアルまで。
- ③学校に行っている子どもがいれば1人当たりさらに45リアル支給。
 ※最高で195リアルまで。

貧困家庭の親は、子どもを学校に行かせれば、喜らしていけるだけのお金を国からもらえるので、みんな働くことしないという話を聞きました。

Por um futuro melhor



どの子の未来も明るくなりますように！

フラジル通信 No.17 2018.11.12

学校教育課 鳥山徳子

毎朝ホテルの方が聞いてくれます。「Você dormiu bem?(よく眠れましたか?)」

⑦ 10月30日(火) DACIA FIGUEIREDO FORTES 学校訪問(全日) ⇔ 多米小学校



アレキサンドラ校長
(2年目・写真右)
・児童数 186人
(特別支援 12人)
・学級数 8学級
・教員数 13人
※午後先生が配置
・IDEB 6.5

週に1回3人(D・S・O)で会議をします。情報交換や学習で遅れている子や生活面で気になる子の話をします。Sは、授業参観に行き、先生方の指導をみるとともに、学習が遅れている子の把握もします。また、先生方の給料は安いので、少しでも学校に楽しく来てもらえるように、先生方を大切にしています。この地域の家庭は協力的です。行事や会議にはほぼ100%出席してくれます。母の日や父の日、子どもの日など、楽しい内容を考えて、子どもや親を楽しませ、よい学校だと思ってもらえるように努力しています。

★この日は、「給食の調理員さんに感謝する日」で、各学級で作成した感謝の言葉を書いた掲示物やエプロン、手紙などを調理員さんにプレゼントしていました。歌を歌ったり、感謝の言葉を述べたりする学級もありました。

★先生方とは1か月に2~3回、休憩時間を使って会議を行っているそうです。D・S・Oがそれぞれの立場の仕事をきちんこなしている学校という印象を受けました。

★Orientadorは、定期的に学級へ行き、生活指導に関わる

話をしているそうです。楽しみながら聞けるように毎回小道具をもって話に行くので、子どもたちはとても楽しみにしていると聞きました。また、3つの顔のハートを各教室だけでなく、校内中に掲示し、相手の気持ちを考えたり、自分の気持ちを伝えたりするのに使っているそうです。学校独自の取り組みだと言っていました。「いじめはダメ」「悪い言葉は使わない」などの掲示も校内のあちこちにしてありました。



子どもたちは、「松」と「井」という漢字の書かれたハチマキをしていました。先生にその理由を尋ねると、「インターネットで調べたら、『松』と『井』には歓迎の意味が込められているから」ということでした。頭の中は?でいっぱいでしたが、子どもたちは、このハチマキをととても気に入っていて、給食のときも、お昼寝のときも、1日中頭に巻いて過ごしていました。Muito Muito bonito! かわいくてかわいくてたまらなかつたです。

ちょこっと情報【フラジルの学校はすべて無償!?!】

- ①教科書 ②かばん ③ノート・スケッチブック・連絡帳 ④色鉛筆 ⑤筆箱(鉛筆や消しゴムも)
⑥靴1足・靴下2足 ⑦制服(半袖シャツ2枚・半ズボン・長そでシャツ・長ズボン) ⑧水筒

これだけのものが「毎年」市から支給されるそうです。給食やおやつなど、学校で食事を4回も提供するのと同じで、最低限の生活をしている家庭の子どもが基準だからです。もちろんそれが不必要な家庭もありますが、「子どもは平等でなくてはならない」という考えのもと、全員一律に支給されているのです。それにもかかわらず、学校は独自のユニフォームを作って売り、それを学校の資金にし、親は親で、筆箱やノート、靴、そして、かばんさえも、子どもの欲しいものを買って与えています。1年間使われずに、家に眠っているものも多くあるはずで、そして、「平等」と言いながらも、裕福な家庭の子は市から支給されたものを使わず、貧困な家庭の子は市から支給されたものだけを使っていれば、それこそその違いは一目瞭然で、決して「平等」とは言えません。

学校では今日も先生方が、「市からもらったものを使いなさい」「大切にしなさい」と、子どもたちに訴えています。